

「2022 年度 TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラム 事前研修」を開催しました (2022/6/18)

テーマ：災害医療と災害看護
会場：災害科学国際研究所、仙台市

令和4年6月18日（土）に「2022 年度 TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラム 事前研修」を、米日カウンシルージャパンとの共催で開催しました。新型コロナウイルスパンデミックにより、今年度も実際に米国を訪問することはできませんが、国内の感染状況が落ち着いてきていることと、対面でのグループ学習効果が大きいことを考慮し、感染予防に最大限配慮しながら、3年ぶりに対面にて開催しました。

災害医療国際協力学分野の江川新一教授が「災害医療と災害看護」と題して、災害のリスクを減らすこと（防災）の基本的な考え方、東日本大震災を経て深化したわが国の災害医療体制、パンデミックも災害として捉えるべきであること、災害看護もチーム医療の枠組でさらに発展しうることなどについて講義を行いました。災害医療の重要性についてどのように広めていったらよいのか、という質問があり、自分の身の周りの人と話をすることではないかと答えました。講義や講演会、あるいはメディアでの発信は多くの人に情報として届くかもしれませんが、相手の行動変容を起こすには、双方向性をもつコミュニケーションが大切です。

東北、関東、関西の看護学生・大学院生 10 名が参加し、災害に関する自分自身の体験や将来に対する抱負などを語り合い、8月の米国研修（オンライン）修了後、社会にむけて何を、どのように発信していくのかをグループワークとして話し合いました。

東日本大震災の記憶そのものが少ない世代に移り変わっているということもありますが、このような活動を継続することで、あらためて災害時に起きうる健康被害、保健医療セクターと他のセクターの協同などを知識として学び実践することによって、将来起こり得る災害に対してもレジリエントな保健医療従事者が育つこととなります。

文責：江川新一（災害医療国際協力学分野）



講義



参加者と